

令和 2 年度 医学部過年度卒業生へのアンケート調査結果について

1. 趣旨

岩手医科大学では、本学における教育の質保証を目的として、平成 30 年に「学習成果の評価検証方針及び指標」を定め、これによって 3 つのポリシーに基づいた教育が実施されているかを検証することとしている。

ここでは、指標の一つである「卒業アンケート」について、卒後 5 年、10 年の学生（薬学部は 5 年のみ）を対象に実施したアンケート調査結果について報告する。

2. 概要

調査対象 医学部卒業生

第 59 期生【平成 22 年 3 月卒業】 78 名（卒後 10 年）

第 64 期生【平成 27 年 3 月卒業】 104 名（卒後 5 年）

調査期間 令和 2 年 7 月 1 日（水）～9 月 11 日（金）

実施方法 インターネット（Google Form）を利用した Web アンケート

質問内容 ① 氏名、性別、年齢、お住まいの地方、卒業年度（○期生）
② 現在の状況、勤労状況、勤務形態
③ 臨床研修を受けた都道府県、専門研修（後期研修）の選択科または選択予定科※医学部のみ
④ 専門医の取得状況 ※医学部のみ
⑤ 学位の取得状況、満足度 ※医学部のみ
⑥ 学位授与方針に対する卒業時の自己評価
⑦ 岩手医科大学での学びのキャリア選択への貢献度 ※医学部のみ
⑧ 岩手医科大学のカリキュラムに対する満足度
⑨ 岩手医科大学での学びの地域医療への貢献度
⑩ 岩手医科大学への満足度
⑪ その他

3. 結果

【回収率】

医学部 第 59 期生 35.8%（24 人/67 人（78 人）） 第 64 期生 22.4%（22 人/98 人（104 人））

詳細は別紙の通り。

4. 総括

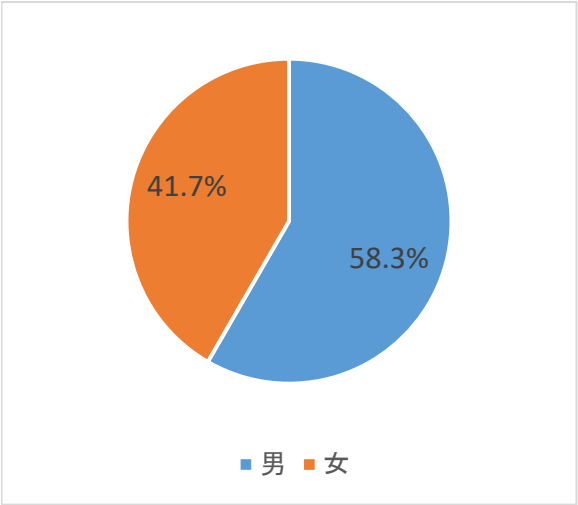
【医学部】

- ・設問 2 勤労状況について、昨年の調査結果と同様、勤務先として大学病院に次いで公的医療機関が多く、地域医療への貢献が伺える。
- ・卒後 10 年を経過した卒業生は 83%以上の方が専門医を取得しており、キャリア形成が進行していることが伺える。
- ・学位の取得率は、59 期生（卒後 10 年）で 54%となっており、昨年の 58 期生とほぼ等しい取得率となっている。一方、64 期生（卒後 5 年）では 32%となっており、昨年の 63 期生の 43%より取得率が低下している。満足度は、59 期生では高いが、64 期生では満足している割合が 57%程度にとどまっている。
- ・設問 13 学修成果の達成では、59 期生、64 期生のいずれも「コミュニケーションとチーム医療」の達成度が最も高く、多職種連携教育の成果と考えられる。一方で、「医療安全」と「社会における医療の実践」はいずれも低く、昨年の結果と同じ傾向になった。
- ・設問 14 岩手医科大学での学びのキャリア選択への寄与について、59 期生、64 期生のいずれも 80%程度が役に立ったと回答している。また、地域医療への貢献度も高評価を得ている。一方で、カリキュラムへの満足度は「どちらでもない」が過半数を占めており、高評価よりも割合が高かった。
- ・設問 17 本学を卒業してよかったかという問いに対しては、「良かった」が 59 期生、64 期生のいずれも 80%近い値となっていた。

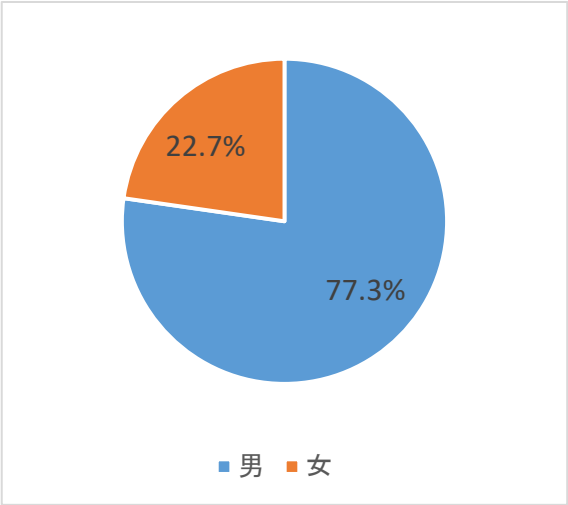
医学部

性別

59期生

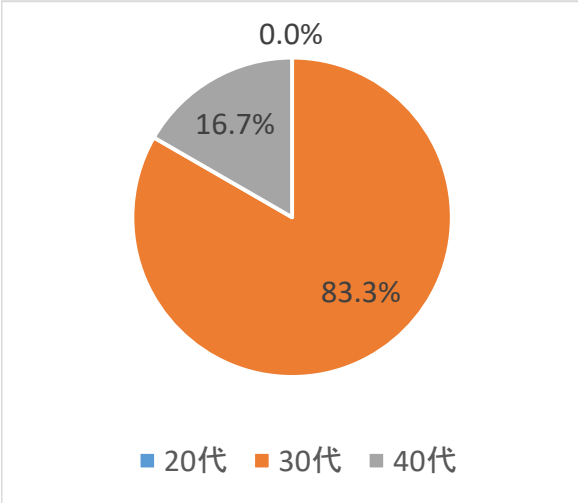


64期生

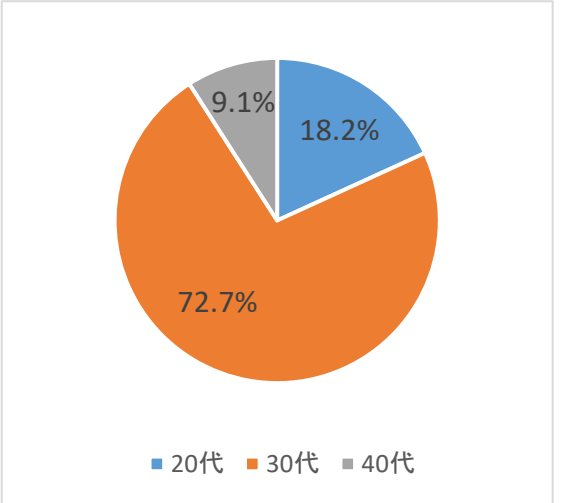


年齢

59期生

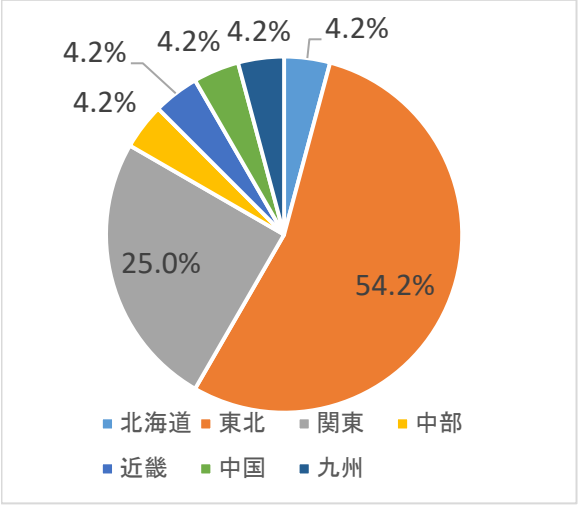


64期生

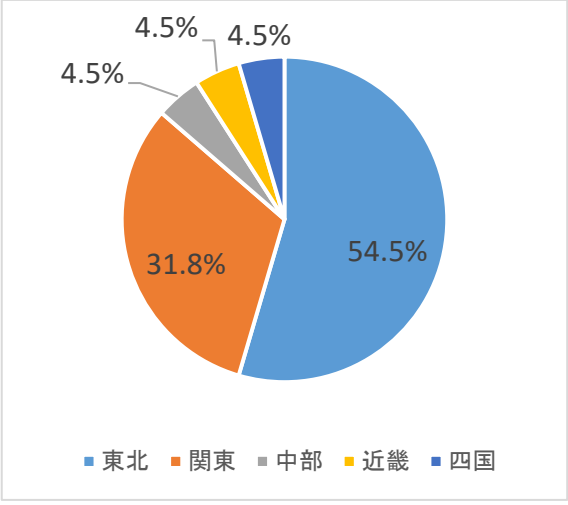


住まい

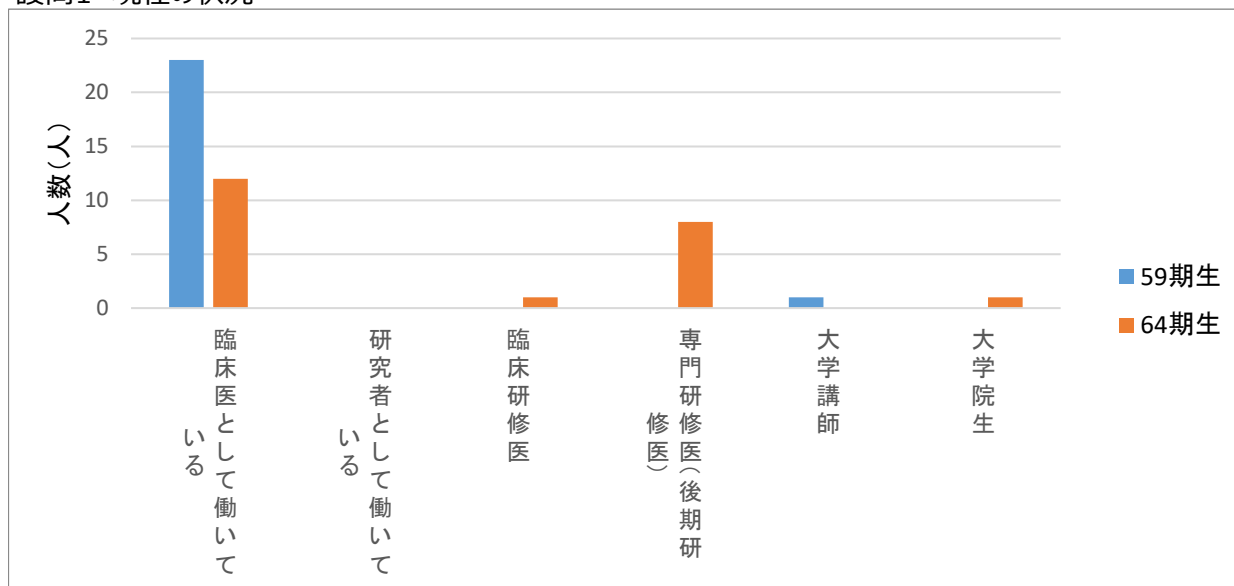
59期生



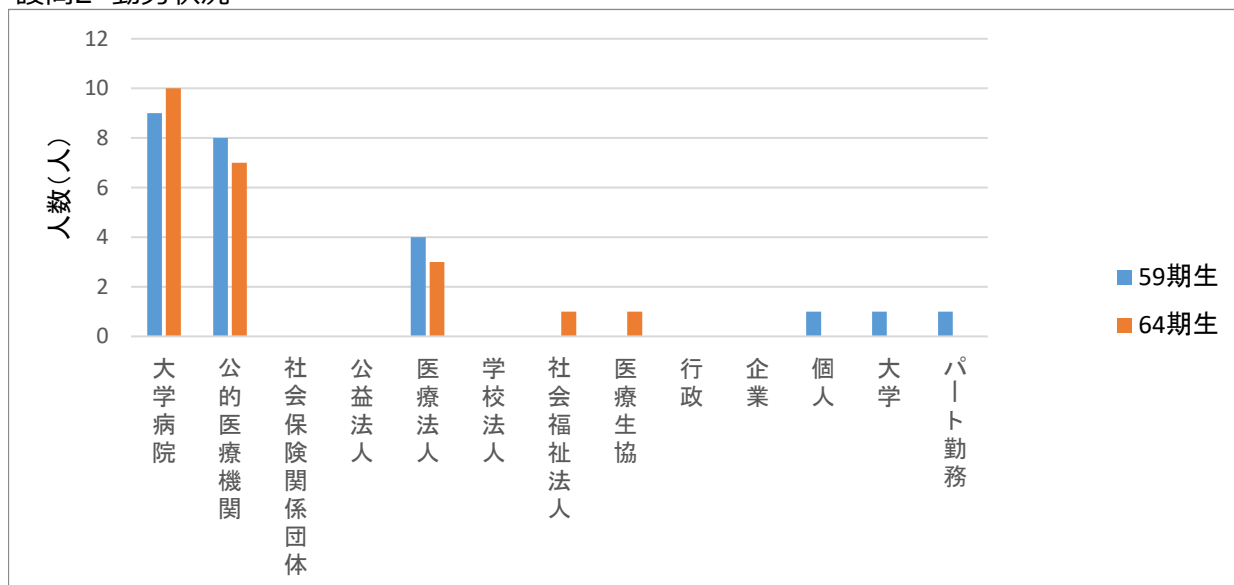
64期生



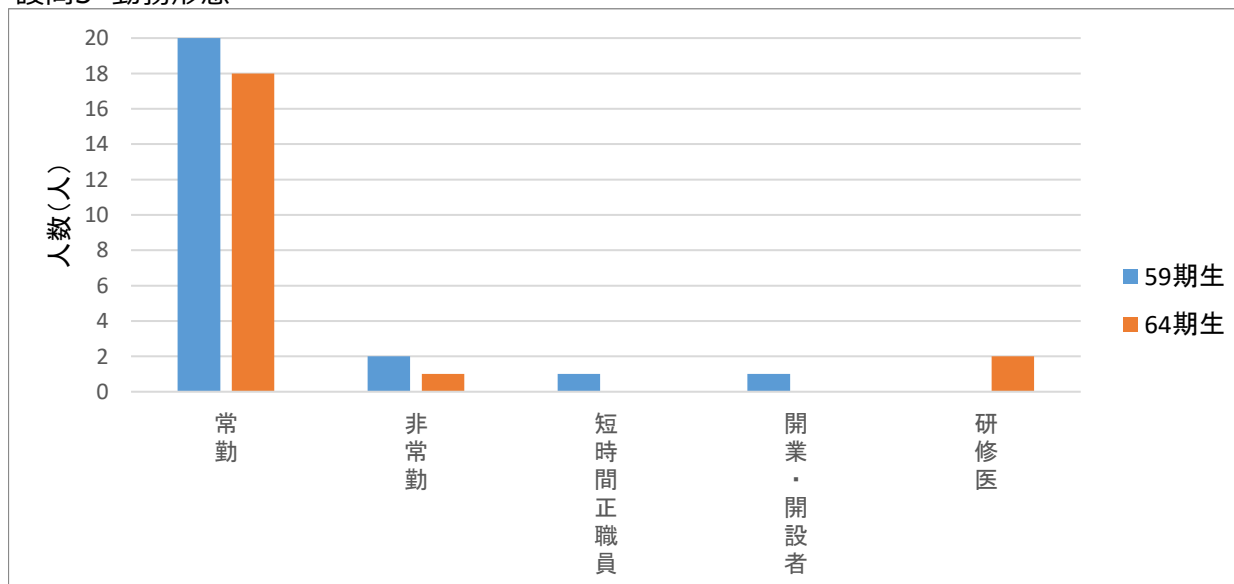
設問1 現在の状況



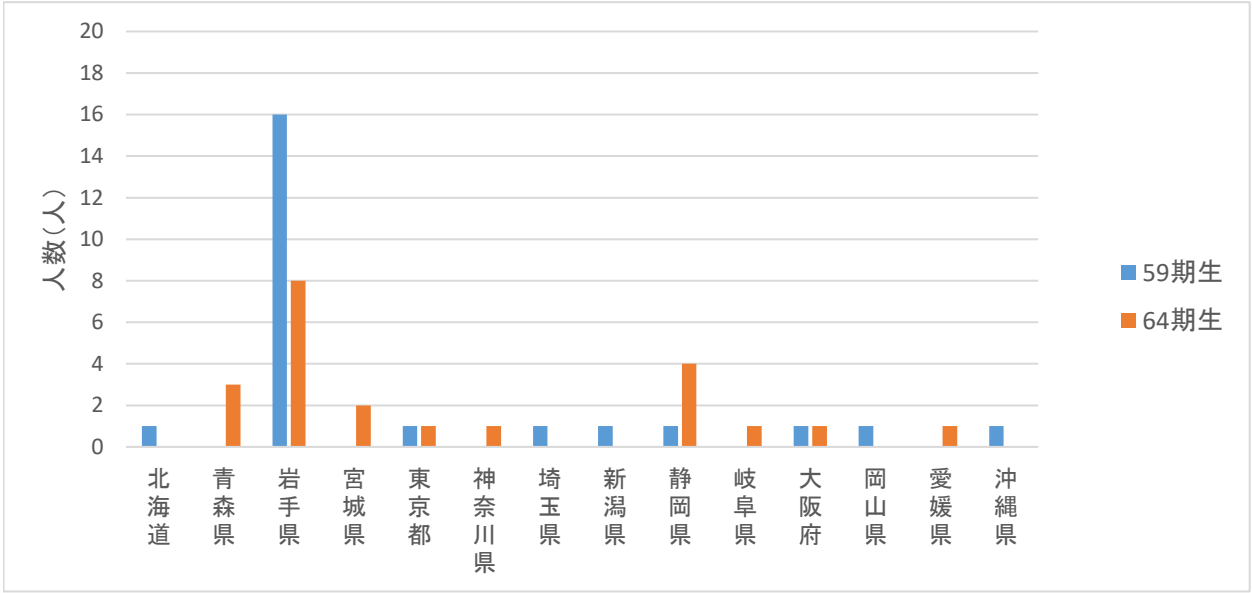
設問2 勤労状況



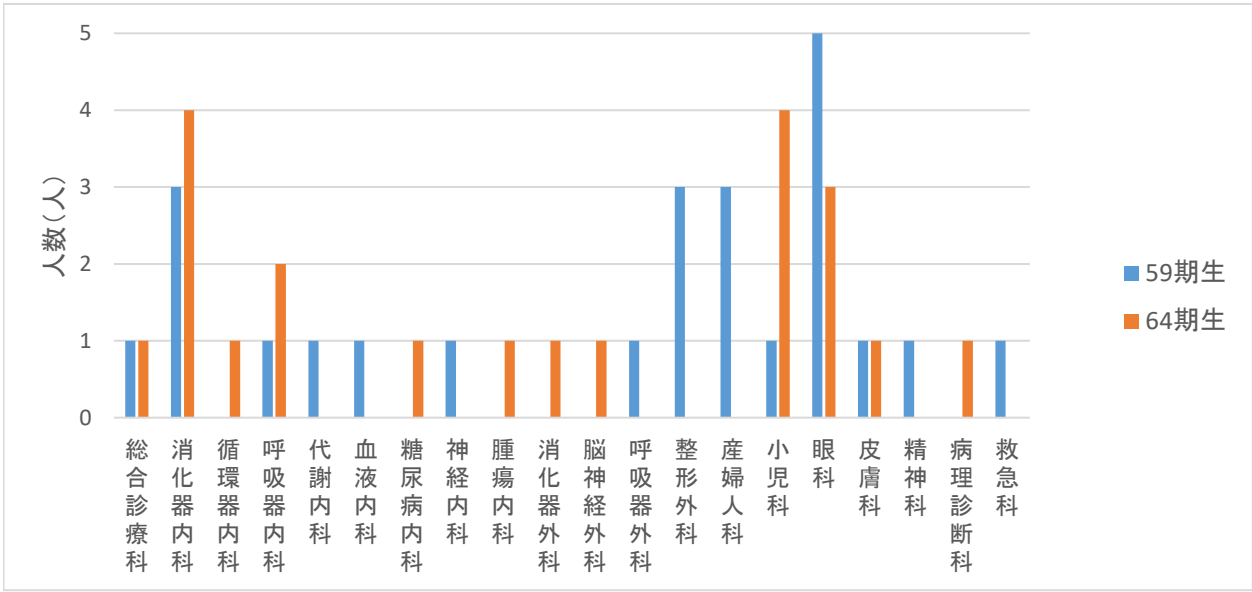
設問3 勤務形態



設問4 臨床研修を受けた都道府県

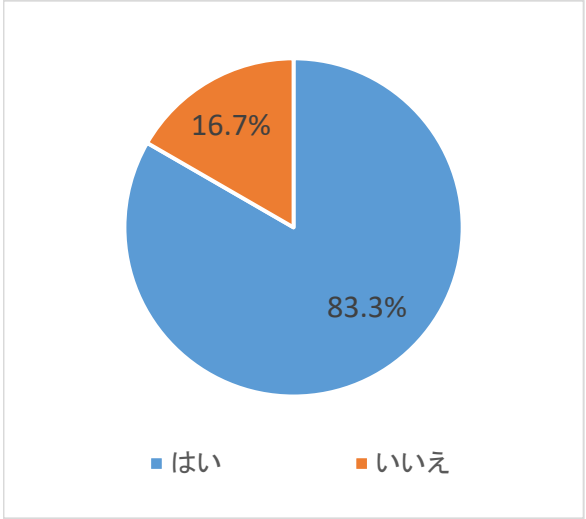


設問5 専門研修（後期研修）を受けた診療科

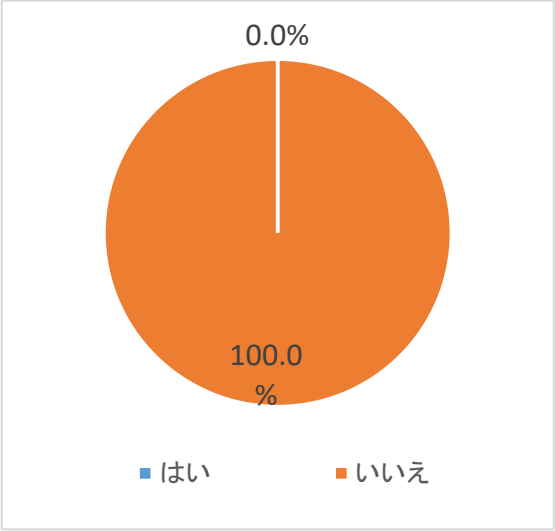


設問6 専門医を取得していますか。

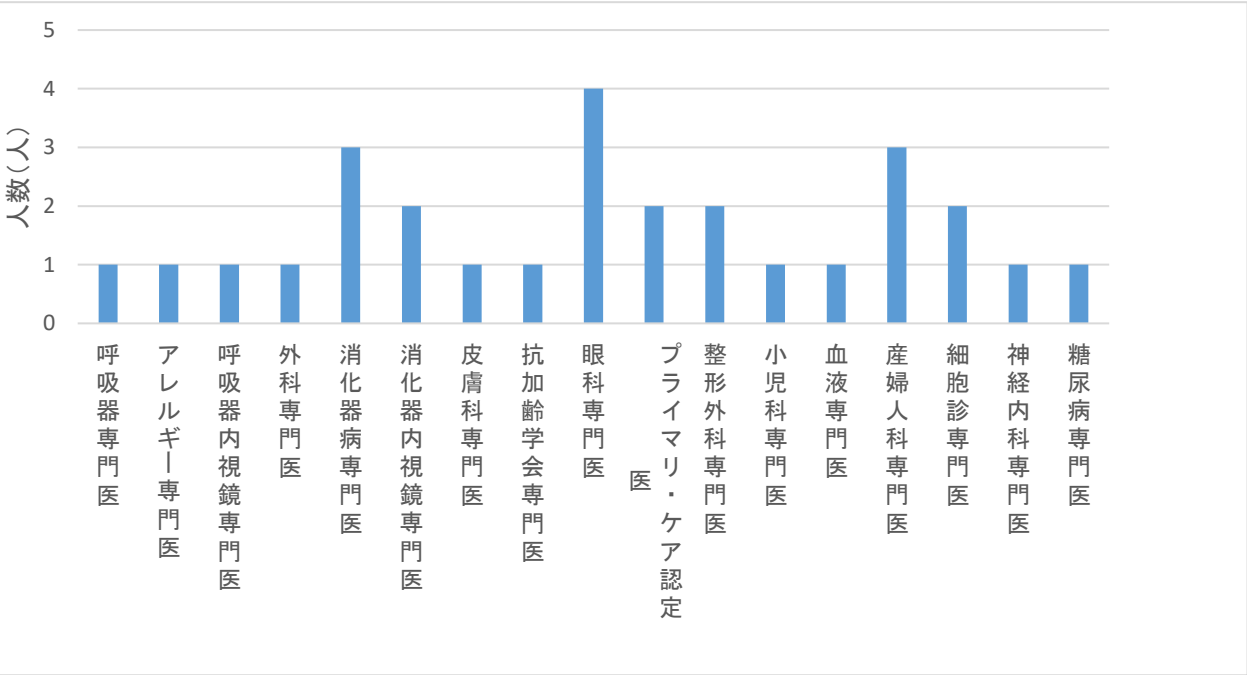
59期生



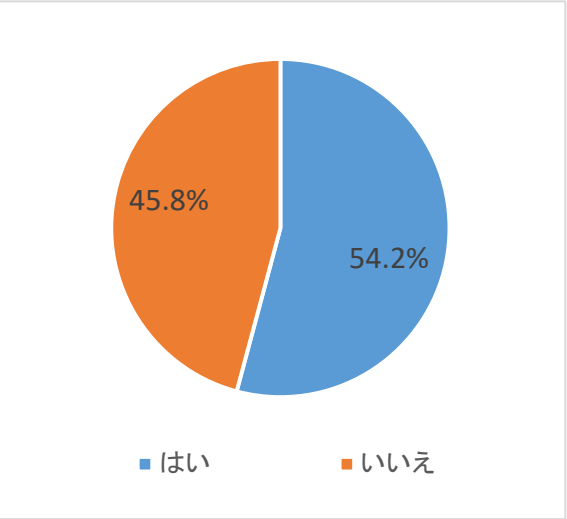
64期生



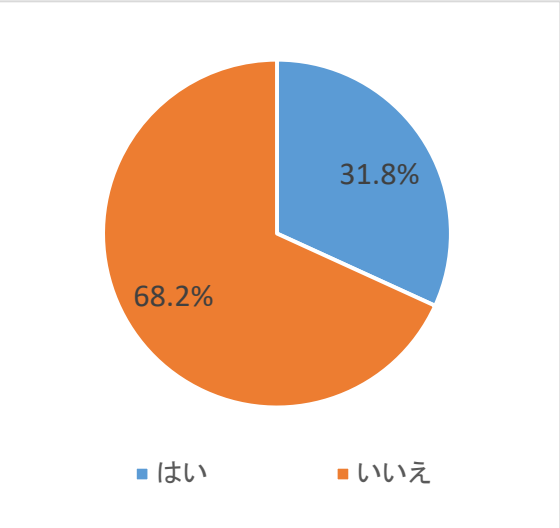
設問7 取得専門医



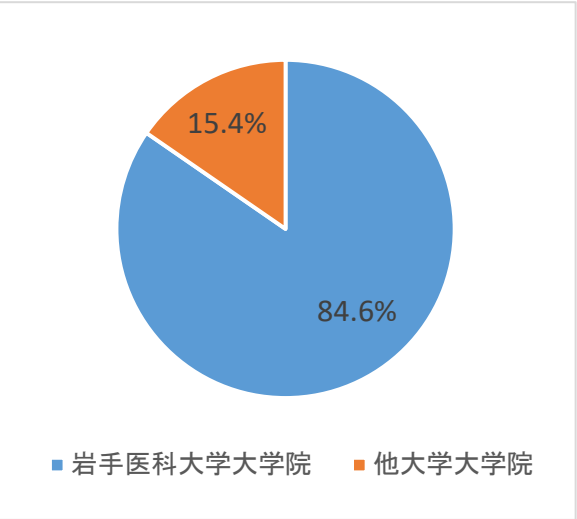
設問9 学位取得の有無
59期生



64期生

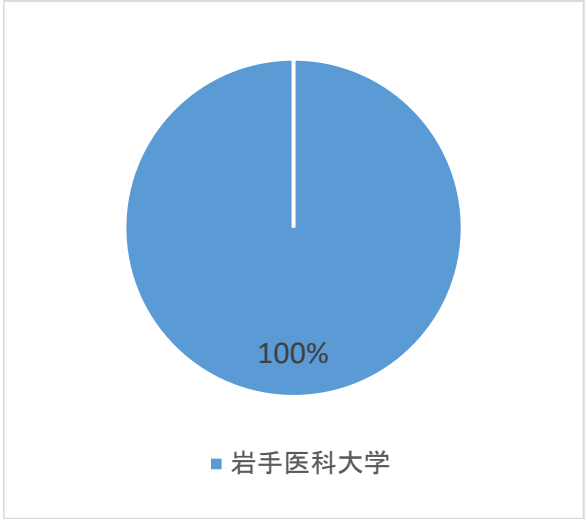


設問10 学位を取得した大学・講座
59期生



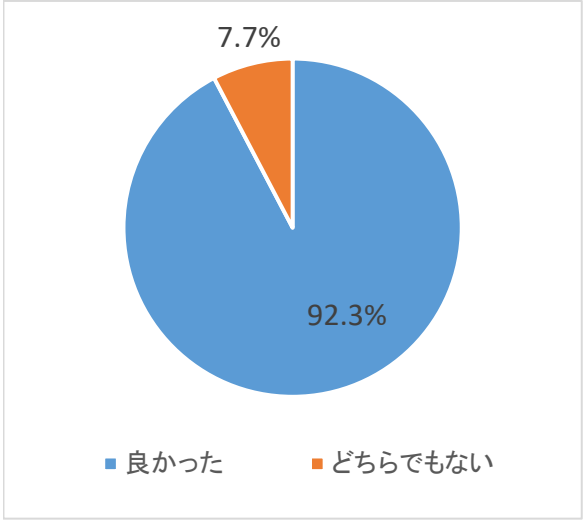
大学名	講座名	取得数
岩手医科大学	内科学講座	1
岩手医科大学	血液・腫瘍内科学分野	1
岩手医科大学	眼科学講座	3
岩手医科大学	小児科学講座	1
岩手医科大学	神経精神科学講座	1
岩手医科大学	病理診断学講座	2
岩手医科大学	腫瘍生物学研究部門	1
岩手医科大学		1
杏林大学	外科系眼科学講座	1
慶應義塾大学	内科学教室	1

設問10 学位を取得した大学・講座（続き）
64期生

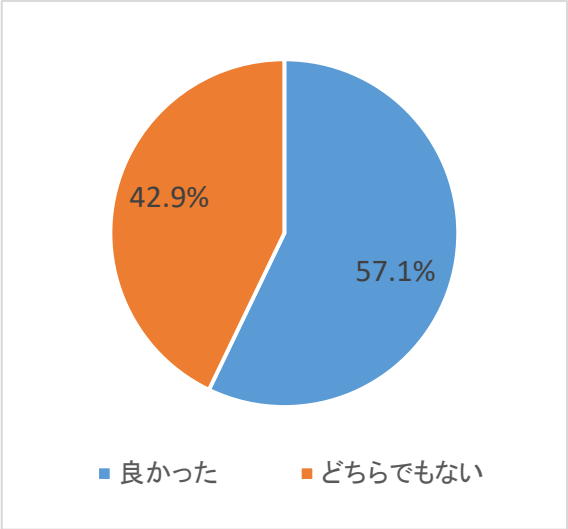


大学名	講座名	取得数
岩手医科大学	消化器内科	2
岩手医科大学	脳神経外科学講座	1
岩手医科大学	小児科学講座	2
岩手医科大学	病理診断学講座	1
岩手医科大学		1

設問11 学位をお持ちの方にお尋ねします。学位を取得して良かったですか。
59期生



64期生



（記述回答）

【良かった】

59期生

●私は基礎研究で学位を取得しました。慣れない実験環境の中、思惑通りに進まない実験計画、論文作成…等、当時は本当に辛い日々でした。けれど、改めて振り返ると、一人の人間としても、医師としても視野を広げることができた貴重な時間であったと思います。また、学位取得をすると公立病院でのお給料も上がりますし、科長等の役職にもなることが可能です。

●基礎研究ができたから

●基礎研究について少しでも知れたこと

●病理の知識が身についた

●良かった点は、文献やデータの見方が変わり、論文を懐疑的な目でも見るできるようになったため、以後の臨床で役立つことが多かった点。悪かった点は、臨床医として最も成長できる期間に、もっと患者を見たかったと思う事。また、研究と臨床を同時に行うため(研究だけの時間は取れないため)、睡眠時間が少なく、毎日睡眠時間が3時間程度で、終盤になり体調を崩してしまった事。当時臨床をいくら行っても、大学からは給料はほぼ出なかったので、妻や子供含めて、家族に迷惑をかけた点。上記からのみを考えると、どちらでもないと考えています。ただ、自分が研究よりも臨床に対してより興味を持つきっかけとなったので、良かったと考えます。

設問11 学位をお持ちの方にお尋ねします。学位を取得して良かったですか。（記述回答 続き）

【良かった】

64期生

- 研究にじっくりと取り組むことにより、論理的思考及び統計データの処理、解釈について理解することができ、論文を読む際にも客観的に解釈し吟味できるようになった点
- 研究方法、論文作成などを学び臨床研究や症例報告をする上で臨床能力を養う礎になった。

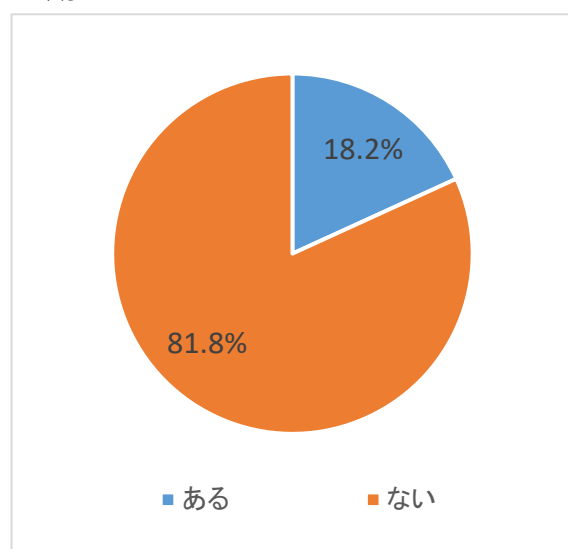
【どちらでもない】

64期生

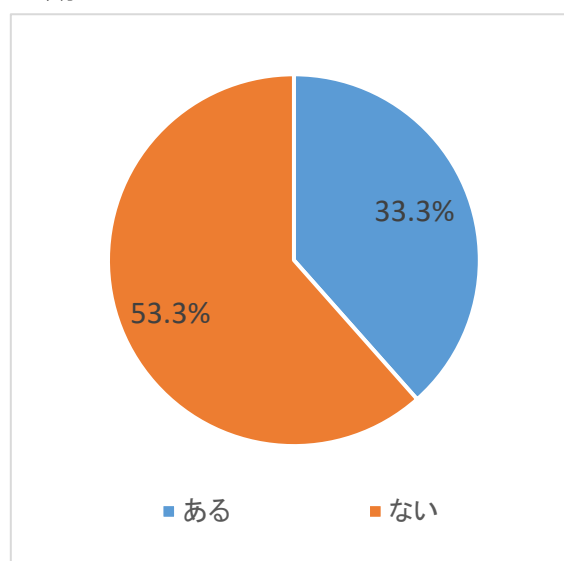
- 学位の利点がまだ分からない
- 研究意志があまりなかったから

設問12 学位をお持ちで無い場合、将来取得予定はありますか。

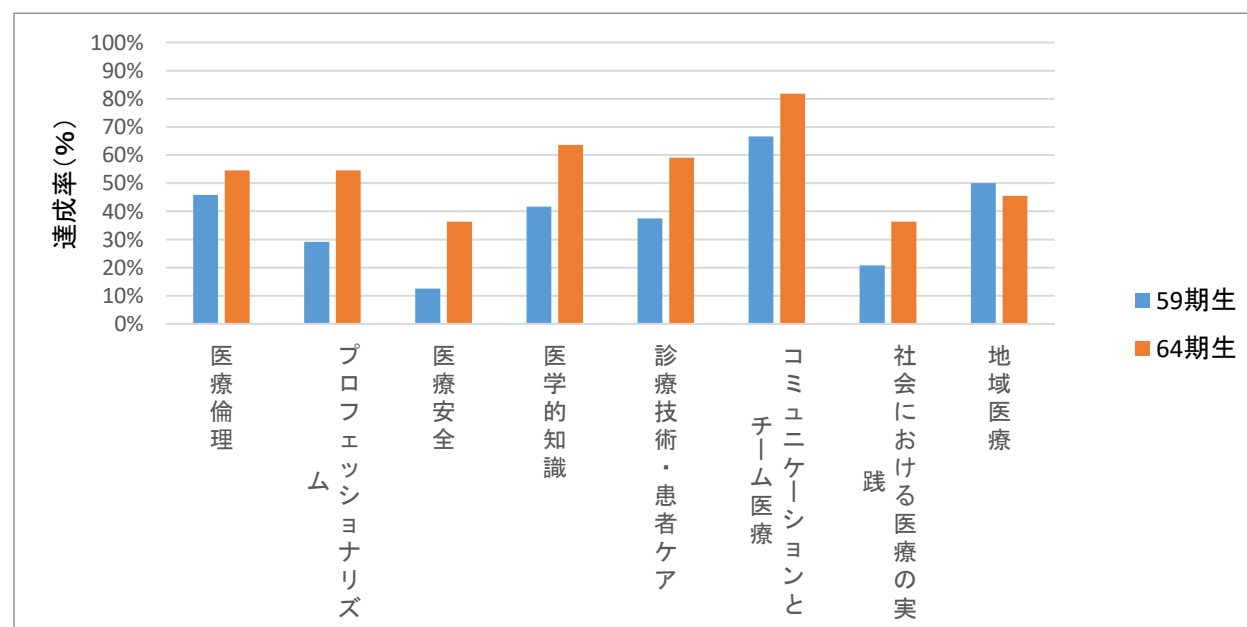
59期生



64期生

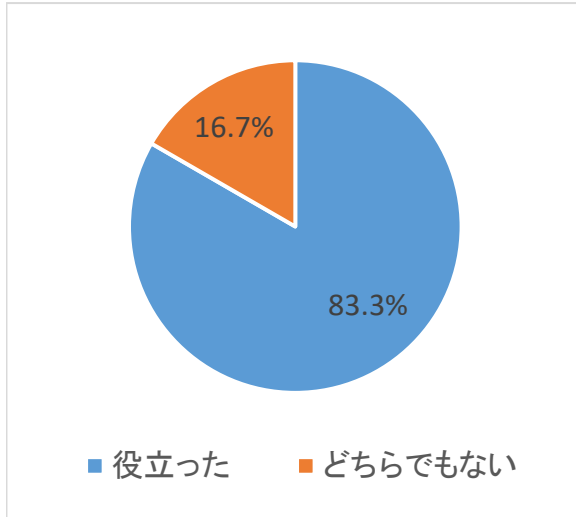


設問13 学修成果の達成について

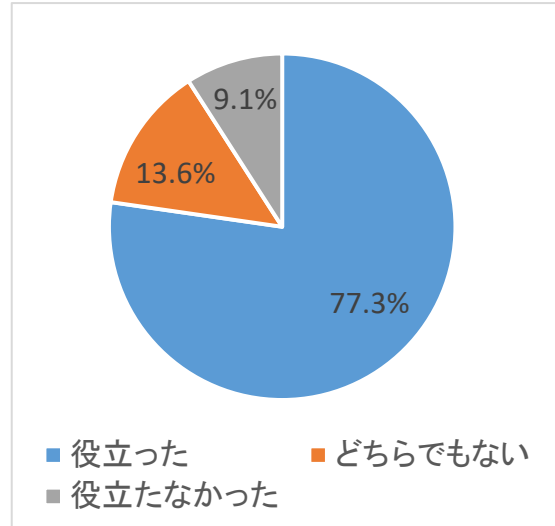


設問14 岩手医科大学で学んだことはあなたのキャリアの選択（専攻）に役立ちましたか。

59期生



64期生



（記述回答）

【役に立った】

59期生

●救急医療へ進むにあたって、岩手医大で出会った救急科の先生方の姿が少なからず影響したと思っています。

●専門医、学位があったので地元に戻ってくるときも、大変良い条件で働くことができました。

●研修医の時期を含め、約10年間岩手医科大学の血液内科に在籍し、4年目位までは受け持ちの重症患者のため、1週間程度家にも帰らず、上司の先生と重症室でへばりついて患者の治療にあたり、医療を勉強しました。また、5年目には長期出張で50床の病棟を一人で治療にあたる経験もしました。辛い時期もありましたが、その分周りの先生方からは手厚く相談や、お手伝いもしていただき、早く成長させて頂いたと思います。現在は入院ありの個人医院を引き継ぎ、岩手医大での経験が非常に役に立っております。振り返ると、研究も大事だという点は間違い無いですが、過去の事を考えるといずれの科も、臨床に力を入れていたのが岩手医科大学が非常に優れていた点だと思います。長期出張に出た先で、より岩手医科大学は臨床が優れていると感じることが多かったです。上記から、岩手医科大学での研修や血液内科への医局に入ったのは非常に良かったと考えています。

64期生

- 地域医療に貢献できたから。
- 基礎学力を身に付けた上で初期研修を行ったおかげで自分で学ぶ姿勢がついた。
- 研究室配属で配属になった診療科に興味を持ったことが現在の診療科を専攻したきっかけの一つとなったから
- ラボ配、ポリクリ、臨床研修などを通して影響を受けた上司や先生方に会えたから
- 呼吸器内科の先生の影響を受けた

【どちらでもない】

64期生

- まだ研修医なので。

【役に立たなかった】

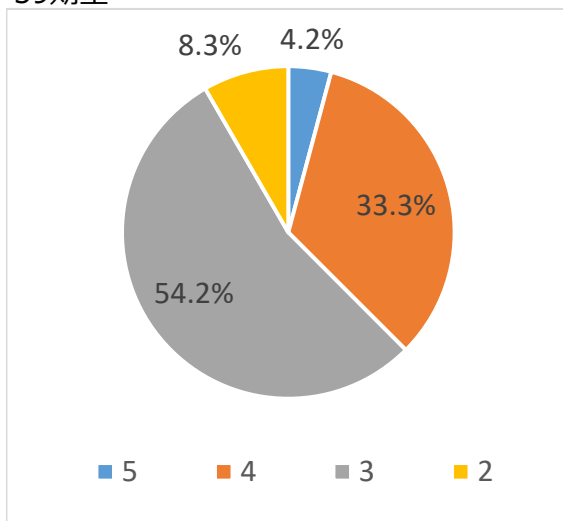
64期生

- 入学時に決めていたから

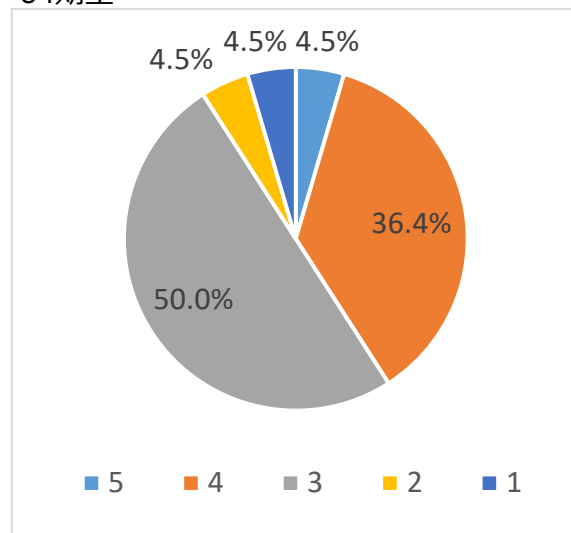
設問15 カリキュラム満足度

5段階評価 (評価5：高評価 評価1：低評価)

59期生



64期生



(記述回答)

59期生

- 臨床医学を实践するにあたって基礎医学がいかに重要であるか、ということを実感できるようなカリキュラム編成であれば良かったなと思います。
- 臨床研修医1年次から大学院に入学できたので、専門医と学位を最短コースで取得できた
- 厳しすぎず、甘すぎず、ちょうど良かったと思う
- 文章をただ暗記させるだけのテストが最低だった。国試にもほぼ活かせなかった。メックを勉強できる時間があればそれで良い。
- 大学生時代のカリキュラムは、5年までは悪く感じませんでした。正直6年の大学の座学はあまり必要ではなく、むしろ受験のプロである予備校のビデオ講義が明確に分かりやすかったです。試験として出やすい所や、試験問題の流行などから、国家試験合格という点だけ考えると、予備校ビデオが最も自分にとっては、大学や模試の成績を伸ばす要因となりました。

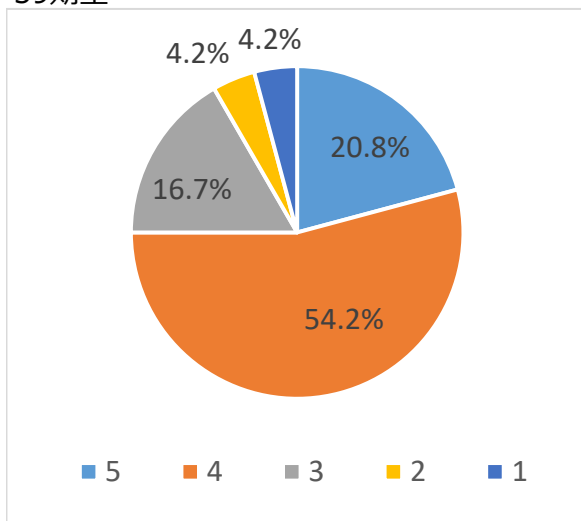
64期生

- 当時は進級判定にオープン問題の書き取りがあったが、機械的に暗記したもののみが成績が良いと判定された点は非常に遺憾だった。
- 留年数が多すぎる(きつすぎる)。4年の進級はCBTだけでいい気がする。当時の精神科のように国家試験の過去問を中心にした試験のほうが国家試験通過力はつきがするがそれがいいかどうかはわからない。レポートの書き方が科によって違い、違う科の書き方をしたら叱る人もいたので(そして他科を批難することもあったので)、そういう理不尽な叱りはやめる方がよい。たまに患者さんや看護師さんを怒鳴ったり、そんなことするの?と思うような医師がいたのでそういうところの医師の対処はどうなってるのか気になったのを覚えている(学生にとって悪い手本がいて実際学生なのに現場に出ている看護師を下に見てる学生もいた)。定期的に学生やスタッフにアンケートをとり面談すると思う(様々な不満点なども記載できるようにする。そのアンケートで評価が変わるようなことはしない。秘密を守る)。勉強会を推奨されても友達が少ない人には難しい。また勉強会の本当のやり方を知らずに卒業した。自分で考える力が当時あまり身につかなかった(進級対策で精一杯なので常に丸暗記)。
- 基礎医学をもっと学生に大切にさせた方がよい。一年生から基礎医学に触れる機会を増やした方がよい。
- 現在の医局所属先の大学病院で学生を見ていて思ったのですが、岩手医大ももう少し学生のうちに英語論文を読む機会があったり、感染症の授業が少なかった印象だったのでもう少し力を入れても良いのではないかと思います。
- 近年は迷走している感じがしますが、基本的には大学の方針を支持します。ただ、学生からの建設的な意見に限っては、耳を傾けてほしいと思います。
- 我々が5年次に導入された記述試験は全く意味が無かった(下の学年の国試合格率の悪さがその影響を如実に表している)
- 6年生は強制的に試験勉強させた方がよい

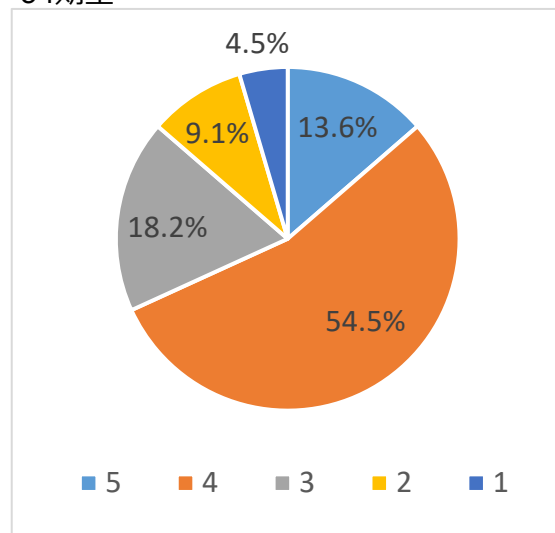
設問16 岩手医科大学で学んだことは地域医療への貢献に寄与していると思いますか。

5段階評価（評価5：高評価 評価1：低評価）

59期生

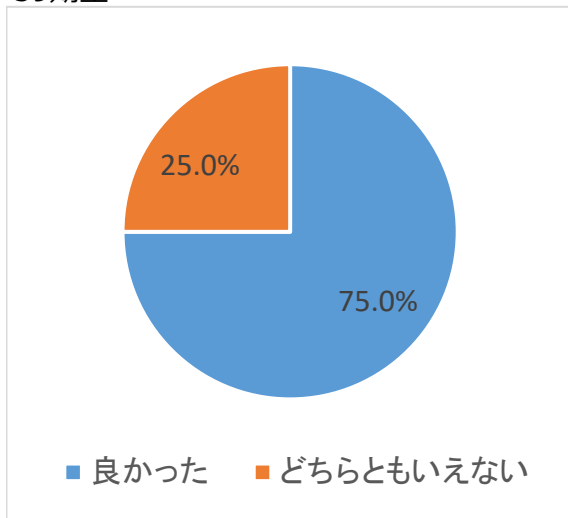


64期生

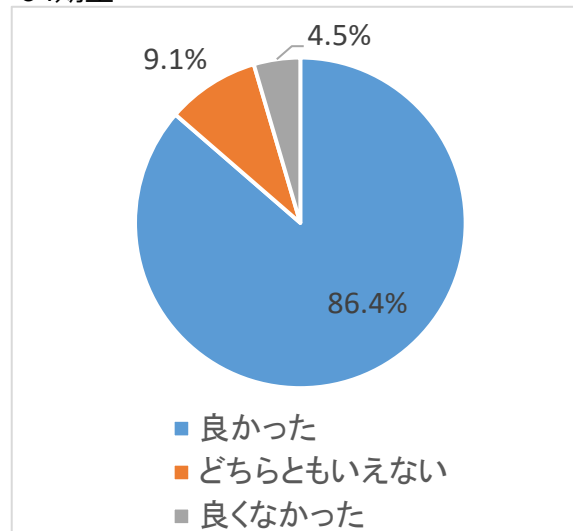


設問17 岩手医科大学を卒業して良かったですか。

59期生



64期生



（記述回答）

【良かった】

59期生

●盛岡という素晴らしい街で、最高の仲間たちと医学・医療を学べたことが自分の誇りです。全ては患者さんのためという姿勢は、大学や実習などで関わらせていただいた岩手の人々に教えていただいたと思っています。

●卒後、学位と専門医をとるまで岩手医大でお世話になりました。現在は地元の地方都市で臨床医として地域医療を支えています。岩手を離れてから、日々感じることは、岩手医大は研究だけに重きをおくのではなく、臨床能力を伸ばすことに非常に力がある大学であったということです。医局や大学院の基礎講座、どちらも居心地が良く、仲間々で日々研鑽できました。そして、どちらの教授も、懐が広くて、熱く、優しく頼れるボスでした。（お二方とも岩手医大出身の教授でした）。お二人の教授に出会ってなければ、結婚後は家庭に入って臨床で働き続けていなかったと思います。

●入学して医師免許取得できたから

●自分の時代は他大学よりも、先生方が真面目に進級を考えてくれており、無理やりな留年が無いいため、多くの医師排出(国家試験受けさせる)に力を入れていた事。在学中にある先生が、1年でも早く医師になるかならないかで、大きく力が変わると授業中に仰っていた事を覚えています。臨床医となって本当にその通りだ感じる事が多いです。また、他大学出身の先生(有名国立大学出身)などと、仕事をすることもありますが、医師になってから真面目に仕事・勉強をしていけば、全く負けない能力を植え付けてくれている事に気がついたため。

設問17 岩手医科大学を卒業して良かったですか。（記述回答 続き）

【良かった】

64期生

- 岩手での生活は楽しかった
- 国試合格率改善、6年生までの進級できちんと能力あるもののみを選抜してください
- 人が優しくった。
- 卒業して感じるのは岩手医大の歴史の深さや各科の知名度など評判は良いと感じた。
- 現在都心に来て実感したのですが、自然が多く美味しい空気と環境の中でのびのびかつ切磋琢磨しながら勉強できたことは自分には合っていたと思うから。
- 良くなかったとする理由が特にない。
- 拾ってもらえたので
- 自分としては母校がふるさとであり、今後も地域医療の要であって頂きたいです。

【どちらともいえない】

59期生

- 国試の合格率が悪すぎるので卒業大学を周りに言いづらい。

設問18 その他、大学への意見をご記載ください。

59期生

- これからも素晴らしい医療人をできるだけ多く育てて欲しいです。
- 最近は自大学出身の教授が減っており、医局の雰囲気も変わっているように感じます。今後も岩手医大出身者から、素晴らしい、熱いハートをもった教授を沢山輩出していただくことを願っております。
- 国試はメックのオンライン授業だけで十分だった。授業は受けるだけ時間の無駄だった。授業で学生の勉強時間を削って、国試の成績を落とそうとしているとしか思えなかった。
- 臨床研修医は全国的に研究よりも、臨床でどの程度、検査・治療に関われるのか(機材に触れるか、手技を任せただけなのかなど)を重視している人が多いです。研修医が増えないとその後の大学病院の人材確保も厳しいと思われます。専攻医制度前、岩手県内で沿岸の研修に人気があり、岩手医科大学研修医も襁褓で沿岸に出て行くのが多かったのは、どれだけ多く機材に触れれるか、手技を任せてもらえるかなどを考えて行っていました。専門医・大学院取得に関して、専門医取得していない先生方がいると思いますが、他の専門医取得される先生や大学・出張先の病院の臨床などの犠牲で、取得困難だった先生がいる事をご理解いただけると幸いです。土日含めて深夜まで仕事して、勉強の時間や取得する時間がなかった先生もいます。

設問18 その他、大学への意見をご記載ください。（続き）

64期生

- これからも誠の人間になれるように、学生達を教育して行って欲しい。
- やる気の無い医学生は低学年で方向転換を含め、大学側が真摯に指導してください
- 2年生以降は集団で授業が行われているとのことだが、地元が多岐に渡る当大学であるからこそ、他県の移動及び長期休みの県またぎの移動について制限するか授業の開催方法を吟味すべきと思われる。
- 多浪したのであまり勉強面は参考になりませんが誠の人間たれ精神は今も大切にしています。
- 最近の国家試験の合格率が悪かったことが少し残念である。入試の時点で入学する生徒の質を高めてほしい。多浪生の扱いをどうするか真剣に考えた方がよいと思う。地力がないまたは人格が変な同級生が多い印象がある。学費を下げないと地方私立大は優秀な人材を確保できないのではないかな。
- ネット上で学生と大学とのトラブル？の記事や投稿を見かけることがあり、少し心配です（見かけたものに関しては大学に非はないと思いますが）。大学に所属させていただいてますので、授業や臨床実習などで微力ながら貢献できればと思っています。